

## 履 歴 書

氏 名 梶山千里 (Tisato Kajiyama) (かじやま ちさと)  
生年月日 昭和 15(1940)年 5 月 13 日 満 77 歳  
本 籍 福岡県

現 職 公立大学法人 福岡女子大学 理事長・学長  
Chairman, Board of Trustees, and President  
所属住所 〒813-8529 福岡県福岡市東区香住ヶ丘 1-1-1  
電話番号 092-661-2411(代)

### 学 歴

昭和 39(1964)年 3 月 九州大学 工学部応用化学科 卒業 (工学士)  
昭和 41(1966)年 3 月 九州大学大学院 工学研究科応用化学専攻 修士課程 修了 (工学修士)  
(参考: 昭和 41(1966)年 4~8 月 九州大学、同 9 月よりマサチューセッツ大学へ)  
昭和 44(1969)年 5 月 アメリカ合衆国マサチューセッツ大学大学院

### 学 位 ( Tisato Kajiyama, D.Eng, Ph.D. )

昭和 44(1969)年 5 月 Ph.D. (マサチューセッツ大学 博士(工学))  
昭和 50(1975)年 7 月 工学博士 (九州大学)

### 職務経歴

昭和 44(1969)年 6 月 アメリカ合衆国マサチューセッツ大学 博士研究員(高分子工学科)  
昭和 45(1970)年 8 月 九州大学 助手 (工学部)  
昭和 50(1975)年 10 月 九州大学 助教授 (工学部)  
昭和 59(1984)年 11 月 九州大学 教授 (工学部)  
平成 11(1999)年 4 月 九州大学 教授 (大学院工学研究科)  
平成 12(2000)年 4 月 九州大学 教授 (大学院工学研究院)  
平成 12(2000)年 4 月 九州大学大学院 工学研究院長、工学府長、工学部長 (13 年 11 月まで)  
平成 13(2001)年 11 月 九州大学 総長 (第 21 代) (平成 13 年 11 月 7 日~)  
平成 13(2001)年 11 月 九州大学 医療技術短期大学部学長(併任)  
平成 15(2003)年 10 月 九州芸術工科大学 学長  
平成 16(2004)年 4 月 国立大学法人九州大学 総長  
(平成 20(2008)年 9 月 30 日退任 計 6 年 11 ヶ月)  
平成 17(2005)年 8 月 国立大学法人九州大学 学長 再選

(再任期2年11ヶ月 2008年9月30日まで)

平成 20(2008)年 11 月 独立行政法人 日本学生支援機構 理事長 (23年3月まで)

平成 23(2011)年 4 月 公立大学法人 福岡女子大学 理事長・学長 (現在に至る)

## 専門分野

高分子構造・物性、有機材料科学

## 賞 罰

- 昭和 45(1970)年度 高分子学会若手奨励賞
- 昭和 52(1977)年度 高分子学会賞「ポリアミノ酸エステル of 固体物性に関する研究」
- 昭和 58(1983)年度 繊維学会賞「高分子の力学物性の構造論的研究」
- 平成 2(1990)年度 日本化学会学術賞 「高分子/液晶ハイブリッド薄膜の作成プロセスの開発と液晶の新しい機能性への展開」
- 平成 4(1992)年度 マサチューセッツ大学総長メダル ‘高分子科学の発展に対する寄与’
- 平成 10(1998)年度 日本レオロジー学会賞「高分子固体レオロジーの構造論的研究」
- 平成 13(2001)年度 BCSJ 論文賞「固体基板上への有機シラン単分子膜の新しい調整法」
- 平成 14(2002)年度 日本化学会 The Best Article of the Month(March),  
“Novel Method to Prepare Organosilane Monolayers on Solid Substrate.”
- 平成 15(2003)年度 日本液晶学会論文賞 “Polymer-Stabilized Liquid Crystal Blue Phases”
- 平成 16(2004)年度 高分子科学功績賞「高分子固体および表面の粘弾性特性解析に関する研究」
- 平成 18(2006)年度 日本科学技術連盟 第36回信頼性・保全性シンポジウム推奨論文賞  
(接着信頼性研究～PBT-エポキシ接着界面の考察～)
- 平成 19(2007)年度 マサチューセッツ大学同窓会 名誉同窓会賞
- 平成 19(2007)年度 マサチューセッツ大学 名誉博士 (科学)  
(高分子物理、および高等教育に対する貢献)
- 平成 19(2007)年度 高分子学会 名誉会員
- 平成 20(2008)年度 九州大学 名誉教授
- 平成 22(2010)年度 直轄産業振興世界戦略研究会(WSI) 名誉顧問  
(同 2010年10月 当研究会設立総会にて選出)
- 平成 23(2011)年度 日本レオロジー学会 名誉会員

## 研究内容

- 1) 高分子固体表面の動的粘弾性解析
- 2) 非線型粘弾性解析に基づく疲労破壊規準式の確立
- 3) (高分子/液晶)複合膜の選択分離機能と電気光学効果
- 4) 高分子表面の分子(液晶、脂肪酸、シラン系)配向解析
- 5) 無欠陥・大面積単分子膜、LB膜の構築法の確立
- 6) 単分子膜、LB膜の分子デザインと機能化
- 7) 多相系生医学材料の開発
- 8) 分子複合材料の開発

## 学術論文

Tisato Kajiyama, Keiji Tanaka, Melting behavior of thin polyethylene films Journal of Plastic Film and Sheeting31, 401-413 (2015), Simultaneous inaging for surface and internal structure of Polymer blend thin films. Appl. Surface Science (2008)

ほか、747 編

## 著書、教科書

①Current Topics in Polymer Science vol. 2. Carl Hanser Publishers (1987) 共著

②

- 1) 新高分子実験学—高分子の物性 (共立出版) (共著)  
平成9年6月 理工系大学院向けの材料物性測定法の解説
- 2) 現代界面コロイド化学の基礎 (丸善) (共著)  
平成9年5月 理工系学生向けのコロイド化学の基礎応用の解説

## その他総説

平成19(2007)年度 ポリマーブレンドにおける表面・界面の濃縮現象  
表面科学 Vol. 28, No. 12, pp. 688-697, 2007

ほか、128 編

## 特許等

(高分子/液晶)複合膜の作製・応用に関する特許と、高分子表面を用いた機能材料開発に関する特許等で約50件